

七鳥日記



ル 4
3948
2



むしむも是えぬバウリシ。其さまい〜。あはし
なり。されども下さまれものい〜。其中小島
おぬ人も又世のおぶええでたく町めきたりし
人も有。又一山一寺をたつた法師も有。又富有小
いと来てそのあまめち〜ぬえともあそとよく小
今ハ島の人小いや〜め〜。滅草に露のあを。つ
かきて。ぬ〜た星露をたつたも有。

御免のそ〜。一度國小歸る事有と。そのを
たつて何〜もた〜。か〜島を〜うめた〜。
是語がやまら〜。皆自もとむる〜。そ〜。先
さ〜。其〜は〜の〜。志のび〜。先

親族の名をけ〜。其罪は由の海より。も〜。へ〜
廿日〜。は〜。五月八日小此を〜。つ〜。よ〜
この〜。は〜。え〜。のた〜。は〜。人〜。し〜。文志〜。
ふ〜。あ〜。し〜。し〜。に。俄〜。は〜。を〜。ら〜。て船おろし事止。
〜。の〜。を帆を〜。と〜。な〜。思ひあらた〜。は
〜。ふ〜。と〜。りハ稀あり〜。風波を〜。事〜。のむ〜。つ〜。
國地の海〜。同〜。は〜。に〜。い〜。る〜。〜。〜。
廿一日〜。も亦商人の船を〜。を〜。と〜。つ〜。げ〜。あ〜。〜。〜。
多〜。呼〜。は〜。を〜。てやむ。仲を〜。お〜。や〜。に〜。〜。風もよ〜。れ〜。岸の
は〜。ゆ〜。へ〜。ふ〜。船おろし事〜。の〜。れ〜。い〜。む。

業をすめどももの水に及てあまは井なうとわきあうり
あまは井なうとわきあうり
そのかりにありたき又いもの類たぐひをまひひきても。家内
一日の食ふきたるぬを。先父きつふすあまにあらして。それ
くはだ。やしらゆきたる。家内そらあひのさぶらう。それをも
おもひのまひひきで。もちて帰る。まはらへ酒を。こ
のむ。やしらゆきたる。家内そらあひのさぶらう。それをも
うひそて。ゆきて。父すまひ。又父やまひ。あはる。時夜も
いひ。まはらゆき。又やしらゆき。かくまで。多氣を。味で
孝養かうやうしたる。感かんをも。あまを。あり。さて。その中を。か
ぐへ。まはらゆき。の産うぶ之こ。かあもの。孝養かうやう。やまき。こ
おる。こ。急おとた。うら。わら。う。が。よく。もつ。あまを。あま。こ。が。孝かう
心

いも。たう。こ。く。受え。え。け。く。此三人。り。至。孝
おや。や。け。小。や。へ。そこ。も。や。れ。采。を。臨たみ。り。ぬ。の。こ。お
孝子。る。國。地くわ。小。も。ら。か。い。ま。た。島。の。人。は。此。孝。子。あ
ま。ら。う。れ

廿五日

廿六日

八丈島より己午れ。三十里。は。り。に。青島あおしま。といふ
島。ら。田。園た。よ。く。み。の。ま。て。い。も。め。で。な。ま。は。い。あ。り
く。ま。が。明。和。の。時。島。の。山。焼。出。て。人。跡。ま。か。く。死。し
田。園。之。れ。砂。后。と。あ。ま。人。乃。ま。む。べ。も。あ。ら。し。の。お
死。の。こ。り。當。る。人。これ。八丈島。へ。か。け。ま。り。て。人。なき

島とぞなりたる多る。今八丈島小川のそす
 もれどもあま島へおしるきて焼かるる砂石を
 こまきていふまゝてまゝにめをふせんと
 御免を蒙りてちつきはより人ゆきそをむ。又
 もゆきまゝが。八丈島小島をてのりもたもが
 難風おあひま洋中におりまぬまゝに
 おしるまゝにして相まゝ。農具穀物をつま
 八人乗てとて申れ末よ舟をいふたふは
 あくしてりちかふなりたる。無難にまゝは
 ちつきよりやをたも。かま火のえぬまゆま
 ぬるはま。青島へゆくまてれりまゝに氷も
 乏しきが。目をかきひて漂洋しるまゝに船は
 ろれまゝも必りお死なまゝに帆をあげ
 多る日を命白くまゝにあらまゝに
 神佛の加護やあまも。ちやま安房の國へま
 よひつき。うれよりいへ出

御恵をのびて三宅島へり丑寅の風
 帆をあげて。八重根の岸少きたる。父母妻子
 兄弟よまれ國より歸り。又ハ夢してまゝに
 おしるまゝにひあまもゆえ。まゝにまゝに
 よる八丈島小島。たまも。みらまゝに
 けしきまゝに。まゝにまゝに

多く死す事。おそろし。色あやし。花をよめ
そと島とひひあつ。さしてあやふきいふ。又も
し。くまんと福がふ。ゆ。た。ら。あ。や。何。ゆ。せ
むり。小。思。ふ。先。祖。の。あ。は。き。ゆ。を。ふ。く。あ。び。き
つ。あ。なり。と。い。ふ。さ。ま。け。ぎ。又。あ。ま。た。い。た。た。の。ま
し。を。え。え。付。る。

廿七日夕又ふまされ。つむぎ船をおろさん
あまが。信。所。の。波。濤。き。く。あ。じ
廿八日 廿九日 岩波のりや
八月朔日

二日夕あしをよめとあれむとて。うらぎもつむ

船も商人の舟もとせぬ。あつ。船。子。便。船
の。う。れ。ま。ぎ。も。へ。く。六。十。人。を。あ。ま。り。其。親。族。朋。友
も。船。く。八。重。根。の。舟。ふ。出。て。あ。ま。り。し。む。又。え。物。の
人も多し。あ。ま。り。船。を。出。し。ぬ。え。じ。し。う。ふ。ん。か
ら。い。あ。や。思。ひ。く。ふ。ま。も。ゆ。い。つ。ら。を。女。の。昔。か。の
も。ほ。も。め。れ。志。こ。き。ん。と。遠。く。あ。る。も。う。の。こ。い。を
そ。我。か。げ。ま。ま。ち。日。傘。を。さ。す。小。女。か。か。え。り。さ。ふ
つ。う。花。つ。け。か。あ。ま。の。あ。も。じ。き。國。林。の。ま。ら。あ
え。さ。こ。ち。ち。ぞ。う。か。あ。ま。ふ。き。さ。い。さ。え。く。が。ら。と。も
船。子。れ。ま。も。い。ゆ。き。さ。ふ。も。の。う。れ。ら。あ。め。じ。る。あ。ま
ま。し。て。あ。ま。り。國。へ。出。る。も。の。又。あ。ま。り。國。地。あ。ま。り

とせうえんとてり^{ゆくの}若のちこそいにおもひやらもれ
ゆもしものち扇子^{せんす}はまらてともたふち^ちみぢり
えささもたれ^き野の巖石のぞり^{いっ}き中^{ちゆう}なつく
をアそ^そなづら^られぞ。そのひのう^うも^もと^とう^うち
をハ帆^かをあら^らる^るく人^{ひと}ぞ舟^{ふね}ハ扇子^{せんす}をわ^わぎ^ぎて^てま
ね^ね。岸^{きし}ハ今^{いま}あ^あも^もゆ^ゆも^もの^のぬ^ぬち^ちを^をう^うら^らに^にお^お
さ^さけ^けぶ^ぶも^もこ^こと^とま^まり^りな^なも^もれ^れあ^あら^らに^にも^もの^のあ^あら^らし^し
る^るひ^ひお^おみ^みぎ^ぎし^しも^もよ^よら^らぬ^ぬ

八月もそや十四日ふおつてあ

まら^らひの^ひ月^{つき}を^をみ^みら^らう^うい^いお^おう^うき^きえ^える^るもの
う^うら^らさ^さき^きし^しの^のひ^ひも^もお^おら^らま^まら^らぶ^ぶも^もあ^あら^らま^まら^らぶ^ぶも^も
人^{ひと}も^もえ^える^るめ^めと^と國^{くに}の^のい^いい^いも^もち^ちえ^えう^うに^に
大^{だい}堂^{どう}の^の月^{つき}を^をえ^えま^まし^しも^もじ^じし^した^た月^{つき}を^をう^うら^らる^る
え^えと^とま^まい^いも^もく^くら^らえ^えわ^わを^を
死^しか^かく^くて^てえ^えん^んい^いい^いを^をま^まの^の月^{つき}を^をあ^あら^らま^まら^らぶ^ぶ
え^えぬ^ぬえ^えの^のま^まあ^あい^いい^いな^なも^もあ^あら^らま^まら^らぶ^ぶ人^{ひと}月^{つき}は^は
ち^ちを^をお^おや^やま^まて^てま^まじ^じあ^あい^いぬ^ぬ

十五日くもつて月夜えど

十六日

十七日くもつてまがふし^{まがふし}く^くら^らま^まら^らぶ^ぶも^もあ^あら^らま^まら^らぶ^ぶも^も
ま^まろ^ろき^き小^こ鳥^{とり}の^の画^え眉^{まゆ}鳥^{とり}も^もえ^えら^らむ^むし^しも^もあ^あら^らま^まら^らぶ^ぶも^も
人^{ひと}山^{さん}も^もあ^あら^らま^まら^らぶ^ぶも^もあ^あら^らま^まら^らぶ^ぶも^も

とらふや

十八日よるもむたが事のが三日にかたなり

こまひ大風自にく宗多くふさやぢりが大木を

ふまいをつぶたふふしつる大風をせのらに

五もいせたひかも事をわりあんて宗家を

ゆるふき大風を凄しくもさひねも島にれ

かやふきあらがあれ木の折り行もからいるが

せきれど軒端を折りしもといふいづつも釘

にしも釘のちらしいしもあらずもといふ宗福寺

の本堂をどよきし也にあればものまいもあらずて

釘にちらひどやねのうらへらまし入るとかう経て軒を

えんとしもゆへのらしもいらずもといふやねをお

のつらく高く國地のらあらずからいてえぬ

廿四日ニ宅島へつらんを祓ぐいも日よりあらず

一月も晦日ふたりぬ

九月朔日初年おふ多きあらりれ松原に

ちらけちららる國地をさしりるものはあらず

たらがちらあけしらましらずもといふ事

おれをさしりる得たらんと電はあらずまいらず

あらずもあらず人のいて是も大毒をりあらずいらず

是をあらずものをあらず毒をあらず酒のあらず

たらずもあらず只もあらずいらずのあらず

をばあかしののびてなる事と云ふも
も。あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも

二日田の鶴も鷹も翼つれ高く飛ぶ
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも

なまこ 鴨山かもりある鶴もあかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも

三日

四日 骨出あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも
あかしののびてなる事と云ふも

船をいふる人おもしろい

廿一日 廿二日

廿三日 沖舟は舟をゆが神漆カニカシしてよす
いふやそ所ふつきまゝの船舟の帰るまゝ
ふふもこの國の文もたゞも國のものをやへる
思ひいふるれいもさくつらあからうら國地
ふてちよも今もやハ丈島よいもよごこと
ワラうあつてとて一まれ文もなるといふ
—さぞまよさおし

廿四日 けいしきん静小ほけきき船とあつて
寅時とさうらうもがらうあつて人をおとす

船つものつらき事おし
廿五日 夕つてもおもやめあれと東の向う船を
て午の時とき夕つて船を揚あがりめいづる島
の人おらうりまがも里をうらてつれ

これく小舟よらのつて歸る中に船はたれ
あつても五六人のこゝろまうて船のまゝま傳つたひ
わつて三宅島まがゆき事とて思ふら
海となくたりゆきゆきはつれをい
つふよし舟も一舟ふねもまゝ歸るを
まゝ船のあつておらうら今も

〜海へ出て〜 龜おぼれおぼれ
いふも〜 舟に乗りかへりて
めや〜 舟に乗りかへりて
赤物ま〜 三里あり〜 しが陸地とゆへなり
わ〜 舟に乗りかへりて
〜 西南より〜 其中より
わ〜 舟に乗りかへりて
ます〜 舟に乗りかへりて
龍の潮水も〜 舟に乗りかへりて
や〜 舟に乗りかへりて
あ〜 舟に乗りかへりて

〜 舟に乗りかへりて
あや子〜 舟に乗りかへりて
なり〜 舟に乗りかへりて
南針も〜 舟に乗りかへりて
舟い〜 舟に乗りかへりて
お〜 舟に乗りかへりて
廿六日〜 舟に乗りかへりて
名ゆ〜 舟に乗りかへりて
二三五六丈も〜 舟に乗りかへりて
い〜 舟に乗りかへりて

眠十廿も

岩のうへあつて、海の中を渡る。舟は、
かゝる船の舟も、と見え、海へ飛び、
りをさまりて、とも海に、
の晴まきふら、はるべきが、
舟小舟を、申の、

廿七日より、いよいよ、十月小なりたる

朔日、五月七日、小村崎を、
くふく、日本を、新島、
伊豆國も、あつて、
うゝあや、富士山、
その、筆にも、

そも、五月、八丈島、
小島の、
ほう、
に、
歸、
此、
その、
此、
二日、

此島小薬師堂、
推楠、大木、

むしてその木のなかをまきひりしものありたるを左右の
扉小仁王の画も。佛前のらまに龍の画も。ともも
英一蝶々筆なり。一蝶は高きものなり。つばきあり
ありにゆくりとあつまじきものあり。つばき
にまきかき直のたうまはふ。おに戸へおにまきり
ありといふ。又神主が秘苑一書は菅神の画松樹の
又神像とあるけり。招へに衾の袖とかきりたる
等ゆり。上手の志とさうしつら威しぬ。又浄土宗の寺り
善導大師。圓光大帝の写しあり。真画といひて文
々れども。佛画なるゆへ小のこまにたるべし。八丈島小
ぢふらさしれ帷子へ。源氏繪と書ものありてこま

やくに袖も裾も。のこらふおをきりたるも。又
七福神の画。まじその鏡をまきあけく舞はねとい
かり。杉、杉の式幅。おまきり三宅島をかき
たりといひ

七日此島。つみき多し。木のあき山一面つみき也。
そりしも黄毛の花さきつた。糸のみしり色はそ
おも。ち。茎ゆり。やりつた。葉とて又い戸を
もとあふ。松葉蘭といへるもの多し。此島の産か
るものありしりし。風俗。國地。かき書ふし
男ハ船かせごして戸へ出る。女の容儀。八丈島より
おしこり。三宅島。おまきり。五里許。小御花。あけり

黄楊木の名産あり。國比小用もまれおわり三宅
島よりおろたりとぞ。人のとむあそりつとも。山あもて
伐りもさしやとも。又生茂て盡る事ありとつこ
とに。江戸へ送てあるひ多を得ぬ。高田とん
たん。此島へもつこんととんに大舟もつこむあり
小舟もつこぬ。おろの海もつこむ事あり。是より新島
へつこんと魚もつこぬ。和たり。此島小為朝山といふ
林あり。たひつこりち地もつこぬ。おろ伐りて島と
せんともつこに。為朝の靈をみく。此本は伐りかかると
たつこもつこ。多め人かたつこむ。おろ此林のれつこ
過るにちあり。鎌のちつこむ。事多にせむと

いふ。されど子載の木の葉もつこつて土地をれけ
肥どもつこむ。富となん。伐りて。仰
る。そつこれを。今いらつこむ。伐へきに極あり。おろ
おろおのつこむ。さらどは樂して神のつこむ
たつこむ。さめつこむと

ちちやあす神のえつこむ。つものねつこむ。人の
ためつこむ。山もつこむ。いひちもつこむ。此歌も神のた
つこむ。あつこむ。人つこむ。奥つこむ。ぬつこむ。つこむ
廿五日にもつこむ。つこむ

廿六日にもつこむ。つこむ。つこむ。つこむ。つこむ。つこむ。
新島へつこむ。神津島のおろつこむ。つこむ。つこむ。つこむ。

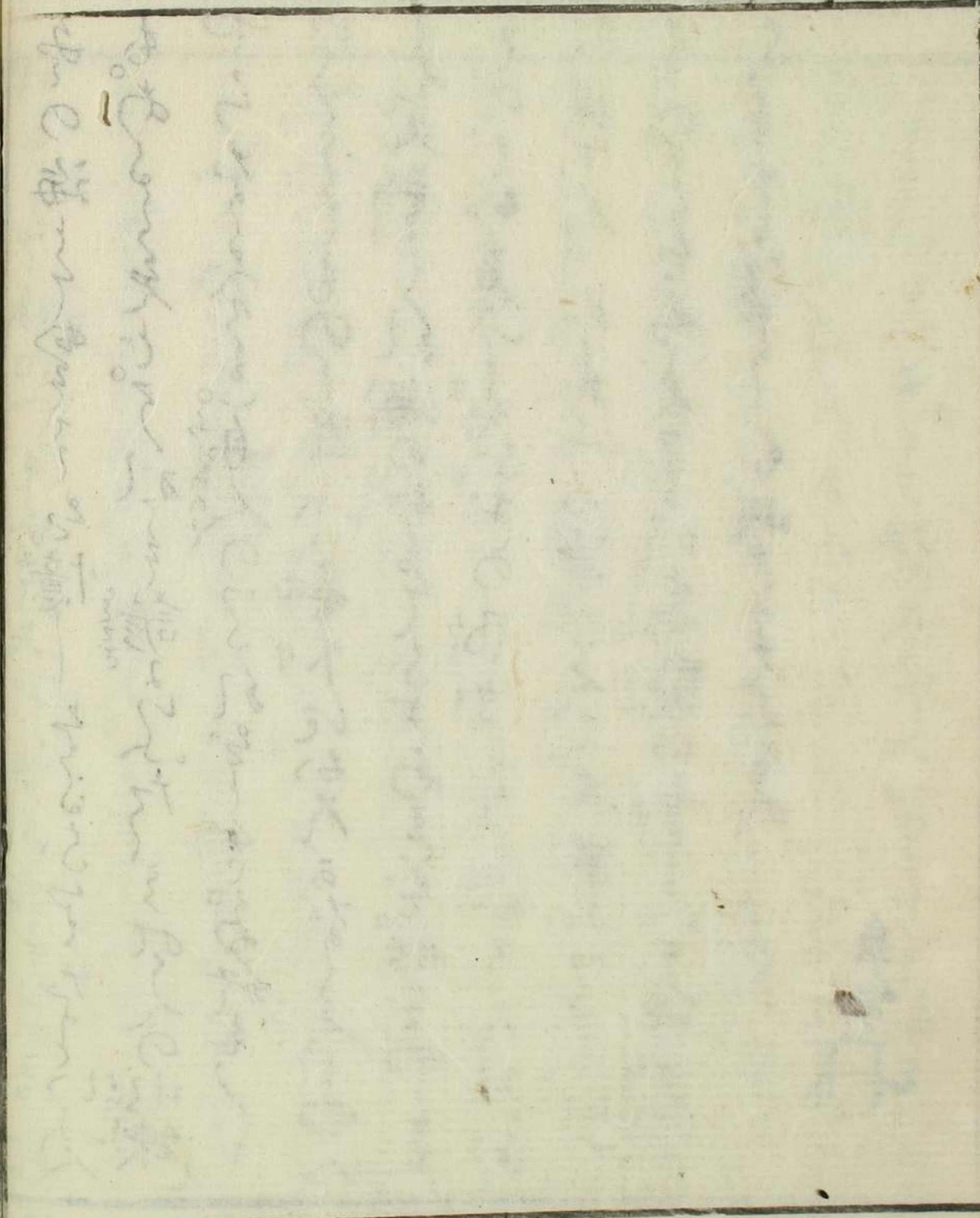
とるもあつたさうにえゆるまどでさうをさ
 けさうさ。此まにあへんあまをさへもさ死
 東の海へたつともかきて終ふねるさかてらさ
 いのたもあまのさうえん過つ。四月廿日より廿三日まで
 よるもあまをさへもさ此あまをさへもさ
 かきめをえたり。がまはるの海をれを千里の沖小
 かづもさ東南の風をさへもさ。歸る事もある
 へし。がまは冬のちうばたもさ。日に西風の候
 東の風をさへもさ。いや遠くかづ
 ゆきてさ。いつ歸るべきたよりあへど。比船をさ
 さうあまをさへもさ。又此人のまどさやあは

東まをさへもさ。船槽あがりさみる。杖もねも
 木のむらうらめも。かまのくさる神ま
 いのつ。かまのくさる。佛のさる。あへん
 一つ。さへもさ。あまのさへもさ。兵隊のれら
 さいもさ。さへもさ。此あまのさへもさ。西風つ。あまのさ
 ひもさ。さへもさ。あまのさへもさ。是れ天命か
 らん。さへもさ。あまのさへもさ。夜もやあけ。宙の
 あまのさへもさ。あまのさへもさ。未申れ。あまのさへもさ
 へん。さへもさ。あまのさへもさ。あまのさへもさ。子丑の
 へん。あまのさへもさ。大島より東の方へ。あまのさへもさ
 あまのさへもさ。あまのさへもさ。あまのさへもさ。あまのさへもさ

いふよまらむべき。船のみん入るも、田日れら乃
申の時まはさをりくも、いづれにぞあつ。あつとも
ちて。大島へつていんなども、寒中れ海うみあやふ
して、そを止ぬ。抑ひつらにのらひつら、
浦うらくもいづら。幾年を強々踏ふりたるも、いづ
おふらぐ。それらより船ふねの事、いそあきさの
人の念のぞとも、船底ふねふたふら。食けも、
湯水ゆづも、いづれと、二三日漂洋うたが。
も。つれも、起居たづねもあつ。船ふねも、いづら
ま。どうぞ。日と月、なつて洋中うたがにあつ。ば
何なにと、命いのちのつらむ。又、中なかも、船ふねも、いづら。

その海とも、おるも、憶おもへ。なつて、いづれ
も。あつ、いづれ。か、いづれ、つた、いづれ、
やらな、いづれ。舟ふねのつらむ。いづれ、
いづれ、いづれ。舟ふねに、いづれ、
いづれ。又、いづれ、海うみの、いづれ、
いづれ。いづれ、いづれ、いづれ、
いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、

いづれ



大丈島の言葉

- オイとしよるまを ○ おまへとしよへきをを ○ 口新(クシ)を根(ネ)おつらむるかど
 - ラいとしよ ○ おはしとしよ ○ じよばいせとせとしよ
 - さいものまを ○ 大なるこをぶげにしよ ○ けいしよ ○ けいしよ ○ けいしよ
 - ぐていとしよ ○ 小なるこをけにしよ ○ けいしよ ○ けいしよ ○ けいしよ
 - 三(サン)四(シ)茶(チャ)の女(メ)を ○ 三(サン)ニ(ニ)テ(テ)ヘイ(ヘイ)としよ
 - 何(なに)とすまの(ノ)わなをいふを ○ おとろきしをす時(トキ)
 - ア(ア)ダン(ダン)セイ(セイ)イ(イ)シ(シ)としよ ○ ぼろく(ボロク)したをいふを
 - そ(そ)う(う)き(き)れ(れ)な(な)い(い)し(し)よ(よ)を ○ 福(フク)としよ ○ ぼら(ボラ)にしよ
 - ま(ま)さ(さ)く(く)し(し)よ(よ)を ○ ま(ま)ま(ま)にしよ ○ 氣(キ)も(も)め(め)な(な)い(い)し(し)よ
 - ち(ち)う(う)し(し)よ(よ)を ○ か(か)い(い)ち(ち)う(う)く(く)ら(ら)し(し)よ ○ こ(こ)す(す)れ(れ)い(い)としよ
 - 孫(そん)六(ろく)としよ ○ こ(こ)う(う)わ(わ)としよ ○ こ(こ)う(う)わ(わ)としよ ○ こ(こ)う(う)わ(わ)としよ
 - た(た)い(い)ん(ん)ま(ま)さ(さ)る(る)ま(ま)を ○ 女(メ)の(ノ)ま(ま)ん(ん)を ○ 男(オ)の(ノ)ま(ま)ん(ん)を ○ 夫(ウ)使(シ)の(ノ)ま(ま)を
 - お(お)こ(こ)る(る)としよ ○ こ(こ)う(う)し(し)よ ○ ち(ち)あ(あ)も(も)としよ ○ の(の)つ(つ)こ(こ)う(う)としよ
- 此(こ)お(お)し(し)も(も)い(い)え(え)く(く)ま(ま)つ(つ)ま(ま)も(も)つ(つ)す(す)お(お)ぬ(ぬ)は(は)い(い)ぬ(ぬ)べ(べ)の(の)
- よ(よ)に(に)て(て)國(クニ)地(チ)へ(へ)あ(あ)る(る)も(も)の(の)い(い)ぬ(ぬ)れ(れ)國(クニ)地(チ)の(の)ま(ま)ん(ん)あ(あ)り

ル

子供の名答回

○男子ハ

男子ハ 名男 卦 三 四 五 六 七 八
九 十
くても。おつて

○女子ハ

女子ハ 名女 卦 三 四 五 六 七 八
九 十
くても。おつて

尾ハ

Faint handwritten notes in the background, possibly bleed-through from the reverse side.

